

# みつる新聞

## 《藤沢市議会議員：宮戸みつる》

平成23年夏号 討議資料

〒251-0028 藤沢市本鵠沼3-9-1-101  
TEL&FAX:0466-35-4110  
E-mail:m.miyato@nifty.com



宮城県多賀城市の説明

## 藤沢に津波襲来！

海から4キロ程入った奥田橋付近



東日本大震災は多くの尊い人命を奪い、大津波はまちを根こそぎ飲み込みました。震源から300キロ以上離れた藤沢にも津波が到達したのご存知でしょうか。一体どの位の津波が、藤沢に襲来したのでしょうか？

写真は、平成23年3月11日、午後5時12分ごろの境川に津波が遡上している模様です（横山汎さん提供）。河岸に立っている人の大きさと比べると津波の高さがよくわかります。

この日の干潮時刻は午後9時50分で、この津波（写真）が襲来した時刻は、満潮から干潮に潮位変動している最中です。この事からも、津波は干潮満潮に関係なく襲って来る事がわか

ります。関係者の情報では、境川橋で午後4時に1.15メートルの潮位変動（上昇）が、引地川でも1メートル以上の潮位変動が大津波警報発令後、数回程度確認されたと言う事です。

## 勢い・高さが全く衰えない津波



また津波は押し波とひき波が交互におとずれ、20回ほど潮位変動が現れたそうです。もし河川上流の降雨の影響で、下流域の基礎的な水位が上昇していた状況を想定すると大変危険でありました。本市の洪水ハザードマップによれば、市民会館周辺は2メートルから5メートルの浸水想定もなされております。本市の河川は2河川あ



りますが、境川の浚渫工事（川底に溜まった土砂を取り除く工事）はあまり行われてなく、川底が高いと言った状況も災害対策本部でしっかりと把握していかなければならないと考えます。

私は藤沢市と大変似た地形（平野と河川がある）の宮城県多賀城市に行ってきました。多賀城市は過去2回のチリ地震による大津波を経験しており、その教訓から防災計画を作成したそうですが、全く機能しなかったそうです。想定していた以上の事が起きてしまった為、市民も行政も混乱に陥ったとの事があります。

海から5, 6キロほど入った所まで津波が襲来したと言う事で、本市に状況を置き換えてみますと、JR東海道線以南のものはほとんど流されてしまったわけです。被災した皆様の話では、『多くの方々にこの状況を見て頂きたい、出来れば来て頂き、直接、生の目で見て頂きたい』との事でした。

## 新たな防災計画の作成を!



防災というものは行政だけでは決してなしえる事はできません。勿論、行政が主導ではありますが、市民の協力が必要『自助・共助・公助』であると言う事です。みんなで力を合わせて、災害に強いまちづくりを創造していかなければならないと私は思っております。

被災地では、復旧計画・復興計画・経済成長計画を掲げて新たな防災計画とともに活動を開始しております。私は、このような情報や被災状況をもとに、自衛隊・警察・保安庁・消防などの協力を得て危機管理室を設置し、市民の安心・安全の為、早急に、あらゆることを想定した地域防災計画を

策定するべきだと思っております。東南海地震や南関東大震災、最近では房総沖地震も発生するのではと研究者が発表したばかりであり、本市の津波のリスクは充分過ぎる程あります。

このような事から私は、高所避難所の設置、電柱等への海拔表示、河川の浚渫工事の実施、河川護岸・防潮堤の強度アップ、防災行政無線の各戸配布、大災害シミュレーション(CG化)の実施、通信・上下水道等ライフラインの強化などを提言しました。これからも宮戸みつるは、市民の負託のお応えするため、更に更に、邁進いたします。



新川名橋から津波を見下ろす人々